



ひっぴたじょり

No.10 2015.12.18

「共に生きて、どういふことなんでしょう...」という問いを抱えてひっぴの保育やほろひっの活動、そしてそれ以外のいくつかの活動も行っているということについて、12/2の保護者会で、今のひっぴの子ども達の様子も交えながら話しをしました。その続きのような内容を、ここに書いてみます。

数年前から東京自殺防止センターの運営のお手伝いをしています。自殺を考へるほどつらい気持ちを抱えている方に、電話相談を通じて寄り添うことをメインに活動している団体です。日本国内の2014年の自殺数は25427人。交通事故死者数4113人の6倍強です。そして15~39歳までの死因の第一位は自殺です。多くの人が周囲の人に「助けて」と伝えられず、自ら命を絶っています。そしてそれは多くの人が身近な人の声にならない「助けて」に気がつけずにいるということでもあります。

20歳代半ばの頃、仲間の一人が自ら命を絶ちました。しかし自立した優秀なできやうでした。「自分のことは自分でやる。自分でやるようになるまで努力する。自立が大事。」と思い僕は大人になりました。「できるよになった自分」の姿に魅力を感じていましたし、幸い不幸の器用なほうだったので、比較的同年輩の人より早くいろいろと自分のことは自分でやるようになっていました。そういう僕は、誰かへ何かを手伝ってもらったり、助けを求めたりするのは苦手です。少しずつ変わってきてはいますが、未だに苦手意識があります。亡くなった仲間も同じように「自分のことは自分で」という感覚を強く持っていたのでしよう。自立していたと思っていた彼は、いつの間にか孤立していたのです。僕も含めて仲間の誰一人として彼の声にならないヘルプメッセージに気が付きませんでした。

そういうことがあっても、親は僕に「自分のことは自分で。まじでできるよ。」と我が子に繰り返してました。小さい頃から思いこんでいた「なるべく早くいろいろなこと自立するのがいい」という価値観は、そう簡単には変わりませんでした。それから数年前、ぐらっと崩れていました。数年前、熊谷晋一郎さんという小児科医の著作と出会いました。熊谷さんは新生児仮死の後遺症で脳性まひになり、車いすから離れられない生活を送りながら、東京大学先端科学技術センターで特別講師を務めています。熊谷さんはインタビューでこう話しています。

一般的に「自立」の反対語は「依存」だと勘違いされていますが、人間は物であったり人であったり、さまざまなものに依存しないと生きていけないんですよ。東日本大震災のとき、私は職場である5階の研究室から逃げ遅れてしまいました。なぜかという単純で、エレベーターが止まってしまったからです。そのとき、逃げるということを可能にする「依存先」が、自分には少なかったことを知りました。エレベーターが止まっても、他の人は階段やはしごで逃げられます。5階から逃げるといふ行為に対して三つも依存先があります。ところが私にはエレベーターしかなかった。

中略

実は膨大なものに依存しているのに、「私は何にも依存していない」と感じられる状態こそが、「自立」といわれる状態なのだろうと思います。だから、自立を目指すなら、むしろ依存先を増やさないといけない。

(引用元 http://www.tokyo-jinken.or.jp/jyoho/56/jyoho56_interview.htm)

列のところで熊谷さんはこう書いています。

最初、赤ちゃんの依存先は親しかありません。赤ちゃんから親に太い矢印が向かいます。親なしでは生きていられない状態ですね。しかし、成長とともにできることが増えていきます。親以外のものにどんどん頼れるようになっていく。友だちとか、先生とか、商店街のおじさんとか、人間だけではなく、いろいろな道具や社会制度を使うようになります。依存先が増えることで、親への矢印がどんどん細くなります。依存できるものをどんどん開拓し、増やしていくことで、自立していくのです。親への矢印が細くなり、依存先が増えれば、より生き方の選択肢が増え、自由になります。そのようにして、子どもは成長していくわけです。

(引用元「かぞく」、2014年12月、特定非営利活動法人SCS子どもの村JAPAN)

僕にとっては熊谷さんのメッセージは新鮮で衝撃的でした。僕は自立と「自分」という範囲だけを狭く捉えていました。熊谷さんの「自立」は社会の枠組みで促え、共に生きる人の存在があります。自立を目指すなら依存先を増やす。依存先を増やすことで、選択肢が増え自由になる。「自分でやろう、自分でできる」と過度に思い込む、追い詰めるのは自立を生み出すのではなく、孤立を生み出してしまふ。孤立した人から多いのは、幸せな社会だとは言えない。日常的には意識してはいなくても、いざという時にはお互い、お互いとしての依存先になる関係性。だからこそ自立した人間同士が共に生きるということではないだろうか...。現時点での僕の答えです。

冬スキーの3つのジレンマも全南に「やっ〜」とお願いしてこころが増えます。昔は「自分でやっ〜さん。」か「はい、やっ〜さん。」のどちらかでした。今は「まずは自分でやっ〜みようか。できるからたら大人や仲間に手伝ってもらおう。」と声をかけようになり、ました。僕自身も少しずつですが「手伝って下さい」「助けて下さい」が言えるようになってきました。大人になつてから、少しずつ自立の道を歩んでいます。

共に生きることに、距離は関係ありません。だから、軽井沢と沖縄であつたとしても...。
・ 慎之介

おおきいくみだよ!

楽しい2学期でした。その楽しさのひやかさは、おおきく・くりのオペレッタを作っていく過程ひとつひとつに現われていました。毎年三つのオペレッタを順繰りに演じ楽しんでいましたが、今年のおおきく・くりは、歌好き、表現好きなので、新しいオペレッタを取り入れることにしました。

子どもたちの自由遊びの中からはれるお話やごっこ遊びの中には、大人目を見張らせるものがたくさんあります。子どもたちは子ども世界で自由にしゃべり、歌い、劇的な表現をしています。たくさん自由遊びの場があるからこそ、だと思っています。

1/26 オペレッタ「沼の宝石」のストーリーを歌いながら進めていきました。おおきく・くりのみんなはじっと興味深く聞いています。おおきく・くりの④⑤⑥が近くに座って聞き入っています。帰りの会の時、④「やらなくていい? やりたいものがたくさんだ」⑤「いいよ、絵を描いた!」大道具作つた!。いっぱいお絵描きあるから何かお願いね!⑥「お絵描き」と安堵の様子。

1/30 実際は演じておきました。以前別のオペレッタの時にゴリラ役をやったから、②にお願いしたのだ。②「ゴリラ どうする?」③「ほくほゴリラ やりたからたんた」②「ほあ 入れておこうね」カッパは④が一番先に手をあげました。④は「どうしようか! 何しようか! 何」と迷い迷いカッパに手をあげました。この日も④⑤がずっと見ています。

1/31 ④は朝から「今日は宝石やるんだ」と楽しみにしています。4コマには④⑤⑥と一緒に手をあげました。④が手をあげると必ず同時に手をあげる⑤⑥。

1/4 この日「男の子、女の子の役を分けようか」と提案しました。4コマや宝石の台本等に、戸惑う男の子役が増えてきたからです。全員賛成で分けることにしました。

1/6 「一役もやらなれない役を選んで」演じてきた4回、子どもたちは、あっという間に新しい歌を覚えてしまいました。子どもが音楽を覚える早さは、驚くべきものがあります。初めての歌でも一緒に歌おうとし、次々にマスターしていきました。さて、二日目、本当の役を選ぶ日。④が病欠で

「何をしたいの?」とメールを送りました。④「どれもいいよ」ゴリラ役は④⑤⑥が争って手をあげました。宝石に決めた④⑤⑥は3人で大喜び。4コマの④⑤⑥は、手を一つずつ挙げています。山賊の④⑤⑥は、静かに喜び合っています。カッパをやること決めていた④⑤⑥の二人。④⑤⑥もお願いをしました。衣装作りの話し合いを各担当ごとにしました。子どもたちの考えることは、本当におもしろいと思われています。それぞれの個性が、自分から考えて作ったものだから、張り切れるでしょう。次の日から④は帽子の上からバンダナを巻き、山賊に扮しています。

今年のオペレッタ同様、集団と集団のやりとりで進めていく「沼の宝石」は、おもしろいオペレッタに仕上がりました。今日の上演は、いかがでしたか?

松ぼっくりの朝の集まり。「クリスマスのうたがきこえてくるよ」と歌う前、④「この歌、うたやきこえてくるまがでてくるね、歌いながら、うたやきこえてきて踊ってみようか」「いえーい」「やったー」と大喜び。切り株から立ち上り、ぴんぴん跳ねたり、おしんおしん踏み鳴らしたり。雪だるまは、ほっぺを膨らませています。そして絵本は「てぶくろ」みんな「知ってる」「知ってる」の大合唱。読み終ってから、もう一度、登場した動物をみんな確認。②「あ、年経ひたひたの猫が落ちてくる! みんな入ってみよう!」と低くしたタープへ。歓声をあげ、タープ下走って行きました。「てぶくろ」の劇の一日目です。練習をするお利、楽しんで表現するおと。大切に考えています。今日の本番? までは数回。今日も保育の劇遊びの延長です。きっと楽しんでる姿を見せられますことでしょう。④のお話も少しづつ積み重ねています。自分の名前だけでなく、お友だちの名前の話もよく覚えています。関心がいっぱいあるおと。歌も入れながら進めていこうと思っています。

1/4は、おおきく・くり最後のパートでした。2枚揃えあげてから、おおきく・くりのみんなは、郁絵エんに代わって「ありがとうごさいました」と伝えていきました。一月からお絵描きしていたのは、本当に素晴らしい……。
：真弓

ひらひらの森の木々の芽たち

～12月 イヌザンショウ 大山椒～

例年の冬に比べてあたたかい日が続いています。雨も多く、しっかりと殻をとし、来年度の春まで眠り続けるはずの冬芽たちが、ひらひらの森で目覚めかけています。あたたかいのはありがたにいいけれど、そんな森の様子を見るといつものように戻ってくれないかと、思ってしまうこの頃です。

さて、今日ご紹介する冬芽は「イヌザンショウ」です。あれ? 先月もザンショウだっと思っている方、今日はザンショウの前に「犬」がつくのです。犬は「舌」という代わりにも使われ、イナガ山椒と違ふのかという、本当にそうくりなっていますが、葉の香りが少し異なり、花数が多いので、実も多くなります。そして、集金袋をみていた犬とトゲのつき方がザンショウは対称、イヌザンショウは非対称(互生)というのが冬の時期目とでもわかりやすくなります。ザンショウやイヌザンショウは、ひらひらの森にたくさんあるのでぜひこの機会に違いをみつけてみて下さいね!

ちなみに「犬」とつく植物は多く、イヌビエ、イヌモギ、草だけで24種(山と溪谷社より)木ではイヌビワ、イヌザクラ、イヌツゲなど17種(同社 日本樹木図鑑)もあります。「犬」は「舌」という意味と、人間の役に立たない、または害になっているもの、という意味づけられたものが多くあります。イセにも鳥や動物の目の前のついでに植物には数多くあります。来年度の冬と申(来)も来梨(サレシ)来豆(サレマ)に、ひらひらの森周辺でも採ることが出来ます。

そして、イヌザンショウの冬芽の下には来梨の顔!? が……?
お正月に植物で先をと採ってみるのも楽しいかも? (お利だけ?)
みなさま、どうぞよい年をお迎え下さい。：菜々鬼



三学期の保育日.

※ 6. P.M. は、巣立ちの集い。一年生に10名とそのご家族とスタッフの集い。

1. 家族が沖縄に引き越された
 ことに決めた。卒園までいっしょ
 歩みだしたのだ。本当に残念だ。
 会える時を楽しみにしたいと思ってる。

- ## 二学期のエピソード

- ② スタッフ
③ どんぐり
④ 松(まつり)
⑤ くり
⑥ おおくり

荷物置き場の近くで①(真)(修)の声をふとしたの、恐い表情のせり。①(真)「お母さんに
 言てやる」②(お)「おっちゃんだってお母さんに言うからぬ」周りが戸惑っている③(明)(修)「ん
 じゃおめじとかわかいおせんざいだが」④(子)「子どもたちのおめじとに、お母さんは関係ないぞ」
 して、⑤(真)と⑥(お)はちゃんと話し合って、⑦(明)(修)「よろしくね」⑧(明)(修)「わかった！」それからい
 らくして⑨(お)が明るい声で「ちゃんと話し合ったから！」と伝える。お母さん。

①と②が2人でのんびりミュージカルごっこを楽しんでいます。そこに③と④が「入れて!」②「えー!」①「小さいくるとつまんない!」とストレート。②が①に「魔法をかけちゃいましょ!」と呪文を唱え始めました。「おろろ〜おろろ〜消せ〜」③は消えません。何十回も呪文を唱えている(4)に大笑いしました。

「ヒザ屋エンに入って」と(果)。(丸)。一大びたおんがいた(櫛)に③「ヒザ作っているんで。見エ行エうか」
 (櫛)も一緒に行く。おじにもう一枚出来上って。上はどんどりが乗って、アゴ③「上はあせるわ。採り
 ますーあ」と出かける。(櫛)「栗あな!」「赤い華やものせる?」と積極的に動いている。おうちジニを
 していた(印)(陽)なちが「バズルもあるよ」「トナもある」と緑の華や赤い華を取ってくると(櫛)「あ
 がとう」(櫛)は(丸)に「ここのせていい?」とヒザ作りを始める。(果)が釜で火焼く(ちゃんと大サバ
 の上にヒザをのせ。木と木のすき間のオーブンのような空間に入れている)のを乗り加へている(櫛)。ヒザや
 スープを食べる時、(櫛)「熱いからフーフーね」「おいおいね」

ラッキーのえさのどんぐり拾いをしていた(果)。ふと陽の光が射れて、照らされたどんぐりと木の葉の水滴が光るのを見て、(果)「ほら、見て！ 宝石が光ってる！」

海賊船の所で、**(丸)****(包)****(環)****(天)****(皇)****(軍)****(大)**が船長さんの家族ジニエしていき、**(い)****(建)**が色水で酔ったジニエを配りに来例。ジニエを届けて、行ったら来例にいき、魚釣りか始まる。両腕を後ろで合抱。サメになって泳ぎ出したら、**(包)**。一人で森を回遊し、サメに倒れていき。それで釣ってほかに、海賊船が平均台の上に寝ていき、そのサメを釣り上げ、**(包)****(丸)**が包丁で切り**(丸)**「ジニエ」といふ。あんたがバカバカと、食べたら、**(丸)**「コレのとこから一食はいいぞ!」食べ終って、**(包)**「また海に帰にあがらう」といふと、おかしな話で「あーい」と、「また来よう」本当に母に2人分の椅子**(丸)**。何故か——サメに倒れて、**(環)**おかしな。黙っていき、平均台の上に寝て、同じようにあがらう椅子。ジニエをいふ、あんた「行ったら」おかしな話、「あーい」といふおかしな話はいいのかとおかしな。

ラング時. ㊦「デザートにしよう!」㊧「お味付けも全部食べた?」戸惑った表情の㊦「...」㊨が飲んでくれた... すぐ横に来た㊨は「お茶碗を片づけながら」㊩「だって、飲んでくれたんじゃん!!」母と弟のふたは二人の表情がバカバカにあり、おかしかった。

(悦)と(碧)が崖にいて。(悦)は(碧)の一人言に答えていき。そのうち(悦)「ねええらん ちにはるる」
 (碧)「おせんべい おせんべい 焼けたかな～まだかな～？」そこへ(淳)がやって来ると、(淳)は(悦)の
 下りた鼻を見て(淳)「痛い？」(悦)「うん」(淳)「どこで痛めたの？」(悦)「うーん」(淳)「転んだの？」
 いたっていたって とんざんか～！(淳)「降にエエたの？ 大丈夫？ 泣かなくていいか」…(淳)の早口で聞いてい
 たら(悦)が(淳)「泣かなくていい」(悦)「ありがとう」(淳)「どうしてして。おれもいまだいい
 おれん～」

紅葉谷へ入散歩。⑤「子やぢとふかみか出てくるジコヤリたい」と言い出し、⑥(修) ⑦(星陽心武) ⑧(遙真) ⑨(權丸) ⑩(律金泰) が「ふかみとワ匹のこやぢジコ」が抱利れた。
紅葉谷は格好の舞台。松ちや、岩や... それにふかふかの落葉。ふかみ役の⑪(丸) ⑫(權)
の上りいニと!! 音頭合わせて升進して列を組んでいる。チロビスキーニアのチャックがあり、ふか
みのお腹を叩く。石を入るまで止めた。くり返し——繰り返した。

② かつた子に通りかかったら、㊦が㊩を押していった。㊦は「ほった!」という表情で顔を
あちち向けれた。②「あー今 ほった と思ったぞ!」㊦「だって押すの 見られてマッたんビビる
③「どうしてなの?」㊦「㊩が棒を顔に投げたぞ!」③「あぶないわ。そういう時は 黙って走って
逃げて!」

①「アイム・マン！」と②を競い来る。③「いい。いゝへ行かない？」④「海賊船!!」おとどく
近づく。⑤が一言のちに「あ、忘れて! 海賊船のどを忘れて!」と一緒に歩き出す。今
学期は何か多分。⑥は船長と今ハドルを回し始める。次々に「入れ」と反響がわ
つて来た。

清里キャンプ 心の残る一言、一場面。

- ・導入5回目 リーダー決めの時、なかなか進める人から「いい空気」に  のリーダーが「いい人！」とレクリ始めて、いい空気に変わる。

・(行)「おれ、まおちゃんと同じグループだ」とい「ふあ」と思ってたんだあ〜(理)「理」も! 3人一番だよおたね(史)「超能力つかってたんだ」と嬉しいう。(行)(理)「え、だ、たの〜?!」とびっくり。電車の中の会話。

・自然学校までの道。(組)「おれ、一番になる。うた(兄)も一番だった。(組)(行)が先を行く。(将)もがんばってついていく。(組)は黙々と歩いているが(行)(将)は小走り。本当は。(組)(行)(将)の順に到着したけれど(組)「3人が一番だよ」(行)(将)も嬉しい。3人が到着後、おどに(史)も到着。「お、おん、く、い、ん、ど、一、番、い、ん」とおれ(兄)の声に(史)は「お、おん、く、い、ん、ど、一、番」と何度も言っていた。

• 前日. 足在強打し. 行くとともに不安に持ていた(※). 自然学校に到着すると(※)「Fock. 来れよ Fock!」

・ 始末の会②「今日から明日まで みんなが家族。みんなが助け合おうね。困った。悲しかった。嬉しいと。...何言ってるね。お父さん一人に お母さん三人お兄さん16人」みんな「わー!」と顔をみ合っている。その直後から(陽明)は「お父さん」と叫んだ。男の子達も「お父さん!」

- ・松浦川の保正を終る屋敷に②は(※)軍運料にて所屬したるに依り、其處に、あとで肩を
かんでおやりよ。

・荷物整理と就寝準備。④「行人の隣り!」とマッマと泣く。⑤「行人の隣り! いい。」⑥「頭に近いところがあるよ。」⑦「はねが納得。」⑧「理も行人の近くがよかったな。」⑨「斜めがあるぞよ。」⑩「もっと近くがいい」と⑪の布団が⑫の布団口等へかかるようにしてある。

・ 別4-1の就寝準備. 自分ひとりでやりながらも、組、席、区を手伝っている。明は素直に「あーちゃんの手伝って〜」

・ ナイトハウク. 不知火の母を(花)が泣く. (墨)「ほくが抱えにあげよう」「ほくもいじつ負うだろう」
夜の野原での絵本読み. (武)が こっこ こっこ 眠っている.

お布団に入って……(常)「早朝にいいかな」(武)「ハッ!」かっすかた。(心)「ソフクローン かんじかた!」
(後)「おれ、清里キャンプ来て すぐかた」(要)「後 すぐかたね」(理)「キャンプが早い。終ってほかにい」
(真)「おれ、おれ、いい 終るか 始まるかとたん。寝息を止めてみた。」

・フィールド「ゴ」のニが「おかし」見つかつた。葛が終つてゐるとうざり(送)「海賊船だ」(武)朝(行)が著つたといふに、(行)朝が「ニ」を「見」た「ニ」は「ある」とみんなに知らせてゐる。(送)「行」と(朝)の「おかし」の「ニ」が「見」つかつた。(行)「いや、それは(送)のおかしだ」。(送)「海賊船」を見つけたから「ニ」が「見」つかつたのだよ。

・ 帰りの電車の中。④⑤は、女性の容貌描写と同時だ。③の乗客を夕に11:00に歌ってエシあげ。おれやべりも Bush 染められた。